市町村職員専門研修①　実施レポート

日時：令和元年８月２日（金）１０時～１５時３０分　会場：県生涯学習センター　参加者：２２名

市町村の生涯学習・社会教育担当の職員を主な対象とした「市町村職員専門研修①」を実施しました。「障害者の生涯学習・はじめの一歩」のテーマで、障害者スポーツを切り口として障害者の生涯学習を推進する方策を学びました。なお、本研修は秋田県中央地区社会教育主事協議会の第２回研修会と合同で開催しました。

【講義】

＜具体的な話で理解が進みました＞

はじめに、秋田県障害者スポーツ協会の**佐藤慶子スポーツ推進員**から、障害者スポーツについてお話ししていただきました。健常者のスポーツは、スポーツに合わせて人間が能力を高め鍛錬を重ねますが、障害者スポーツは、競技する人間に合わせてスポーツのルールや用具を工夫して行います。障害の状況によって「安全に」「楽しく」「公平に」行うことを重視しているとのことです。

障害者にとってスポーツは大きな効用がありますが、地域における環境整備は十分とは言えません。場所の提供はもちろん、障害の理解により、心の壁を取り除くことの大切さを強調していました。地域での取組を推進するため、学校や総合型地域スポーツクラブとの連携、障がい者スポーツ指導員やスポーツ推進委員といった人材の活用などの方策を提示していただきました。

【実践紹介】

続いて、生涯学習センターの**柏木睦主任社会教育主事**が、あきたスマートカレッジ「障害者スポーツを通じて障害者の生涯学習を考えよう」の実践紹介を行いました。「知ろう！」「体験しよう！」「語ろう！」の３ステップで、座学だけではなく、障害者の方と一緒にスポーツを体験し、ワールド・カフェで語り合った事例を紹介しました。最初の一歩を踏み出すことの大切さや、交流して時間を共有することで心の壁は容易に越えられることを指摘しました。

＜卓球バレーで勝負！＞

【ワークショップ】

障害者スポーツを実際に体験してもらうため、「卓球バレー」に挑戦しました。ルールの説明を受けたあと、さっそく「市町村チーム」対「生涯学習センターチーム」で試合を行いました。大変盛り上がる中でも、障害の有無に関わらず誰でも楽しめることや、「人間にスポーツを合わせる」ことの意味を理解できました。

試合の勝敗は・・・ご想像にお任せします！

＜キーワードの発表＞

【グループ協議】

午後の部ではグループに分かれ、市町村における障害者の生涯学習や障害者スポーツの状況、社会教育行政や公民館等の関わりなどについて情報を交換しました。また、障害者の生涯学習を推進するための課題や必要な方策を話し合いました。

行政はもちろん、地域の中でも「タテとヨコのつながり」を作ること、受け入れ時の「入口」を工夫すること、「一緒にいることが当たり前」になるために「時間をかけて」接する機会を増やしていくこと、障害者も健常者もお互いに「楽しみながら」、「Win-Win」の関係を作ることなどがキーワードとして出されました。

障害者の生涯学習は、必要性を強く感じつつも、実際の取組については市町村による温度差が大きいのが現状ですが、まずは「はじめの一歩」を踏み出すことや、全て新規に行うのではなく、既存の取組を生かすことの大切さを共通認識でき、有意義な研修機会となりました。

【参加者の声】（抜粋）
- 卓球バレーが特に良かった。具体的な活動を入れていくことで、参加者の理解が進むと思う。
- 事例を交えた、実践的な研修内容でとても良かったです。
- 来年度の事業に、障害者も参加できる教室を考えてみようと思いました。